

「令和6年度 港北区区民意識調査」の結果がまとまりました

港北区では、区民の皆さまの港北のまちや区政に対する意識や期待、生活に関する考え方などを把握し、区政運営や政策立案の基礎資料として活用することを目的に、区民意識調査を実施しています。

このたび、令和6年度の調査結果がまとまりましたのでお知らせします。報告書では、単純集計結果に加え、年代別や住居形態別、世帯タイプ別などのクロス集計結果も掲載しています。

1 調査結果のポイント（詳しくは別紙参照）

(1) 定住意向〔問9〕

「住み続けたい」又は「どちらかといえば住み続けたい」の合計は83.2%となり、令和2年の前回調査※(70.3%)から10ポイント以上アップしました。

※ 前回調査では、選択肢を「住み続”ける”」「たぶん住み続”ける”」などとしています。

(2) 災害による被害を最小限に抑えるための取組〔問18〕

「3日以上飲料水の備蓄(56.3%)」「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備(52.3%)」「3日以上食料の備蓄(44.6%)」が上位3項目となりました。また、「3日以上のトイレパックの備蓄」は32.1%と前回調査(23.3%)から9ポイント近くアップしました。

(3) 望まれている子育て支援〔問20〕

半数以上の方が「子どもを遊ばせる場所(56.7%)」と回答しており、「子育ての相談ができる場所(41.2%)」「ちょっとした子どもの預かり(40.4%)」が続いています。

(4) 望まれている高齢者福祉〔問21〕

「在宅で医療を受けられる仕組み(56.3%)」「医療・介護が必要になっても切れ目なく支援が受けられる仕組み(52.1%)」「買い物サービスや配食サービス等、困りごとへの生活支援(51.3%)」が上位3項目となっており、いずれも50.0%を上回りました。

(5) 実践している又は実践してみたい環境への取組〔問25〕

「地産地消(29.0%)」「3R※(28.7%)」「花・緑の鑑賞(28.6%)」が上位3項目となりました。

※ 3R：リデュース(Reduce)、リユース(Reuse)、リサイクル(Recycle)

2 調査の概要

調査方法	調査票を郵送し、郵送回答又はインターネット回答により回収
調査期間	令和6年5月27日(月)～6月21日(金)
調査対象者	港北区内に居住する満18歳以上の男女3,000人(外国籍区民60人を含む。)
抽出方法	住民基本台帳からコンピューターにより無作為抽出
有効回答数	1,706件(有効回答率：56.9%)
web ページ	https://www.city.yokohama.lg.jp/kohoku/kusei/tokei/ishiki/r06.html



お問合せ先

港北区区政推進課長 柏崎 崇宏 Tel 045-540-2220



GREEN×EXPO 2027
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



令和
6年度

港北区区民 意識調査結果

概要版

港北区役所では、区民の皆さまのご意見を活かした区政運営を進めるために、4年ごとに区民意識調査を実施しています。今回は、地域活動や防災、福祉・子育て、生活・健康、地域環境に優しい社会の実現、日ごろの情報源、地域行政等についてお尋ねし、多くの区民の皆さまから回答をいただきました。

詳しくは



調査概要

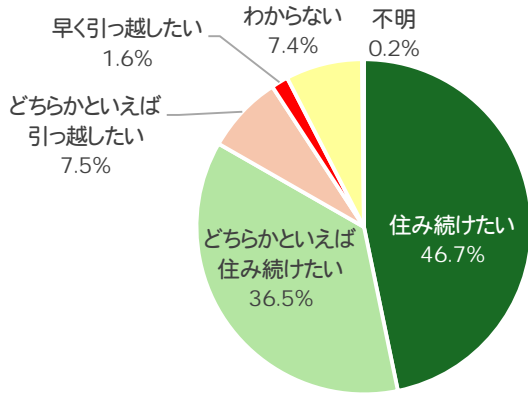
- 調査対象: 港北区内に居住する満 18 歳以上の男女 3,000 人(外国籍区民 60 人を含む。)
- 抽出方法: 住民基本台帳から無作為抽出
- 調査期間: 令和 6 年 5 月 27 日~6 月 21 日
- 調査方法: 郵送による無記名調査(回答は、郵送又は web)
- 有効回答数: 1,706 件(回収率: 56.9%)
- 集計方法: 回答者の偏りを補正するため、港区内人口の性年代(5 歳階級)構成比に合わせて、回答に重みづけ(ウェイトバック)を行っています。

※各項目の比率(%)は、小数点以下第二位を四捨五入しています。そのため、グラフの合計が 100%にならない場合があります。

1 定住意向

港北区に【**住み続けたい**】と思っている人は**8割以上**

問 9 あなたはこれからも現在お住まいの地区に住み続けたいと思いますか。(1 つまで)



【住み続けたい】
計 **83.2%**

「住み続けたい」「どちらかといえば住み続けたい」の合計は 83.2%となり、令和2年の前回調査^{*}(70.3%)よりもアップしました。

※前回調査では、選択肢を「住み続“ける”」「たぶん住み続“ける”」などとしています。

Check!

住み続けたい主な理由としては、「自分や家族の持家だから」に次いで、「買い物、医療などの生活環境が整っているから」45.8%、「通勤・通学に便利だから」44.1%、「横浜が好きだから」34.2%、「治安が良いから」31.7%などが挙げられています。

2 引越す場合の理由となりうるもの

「特に理由がない」を除くと、**住宅にかかる費用が最多**

問 11 現在住んでいる地区から引っ越すことがあるとすれば、やむを得ない事情(就職・転勤、進学・卒業など)を除き、どのような理由が考えられますか。(3 つまで)



「特に理由はない」に次いで、「家賃や住宅の価格が高い」21.9%、「親または子が近くにいない」12.7%が挙げられています。

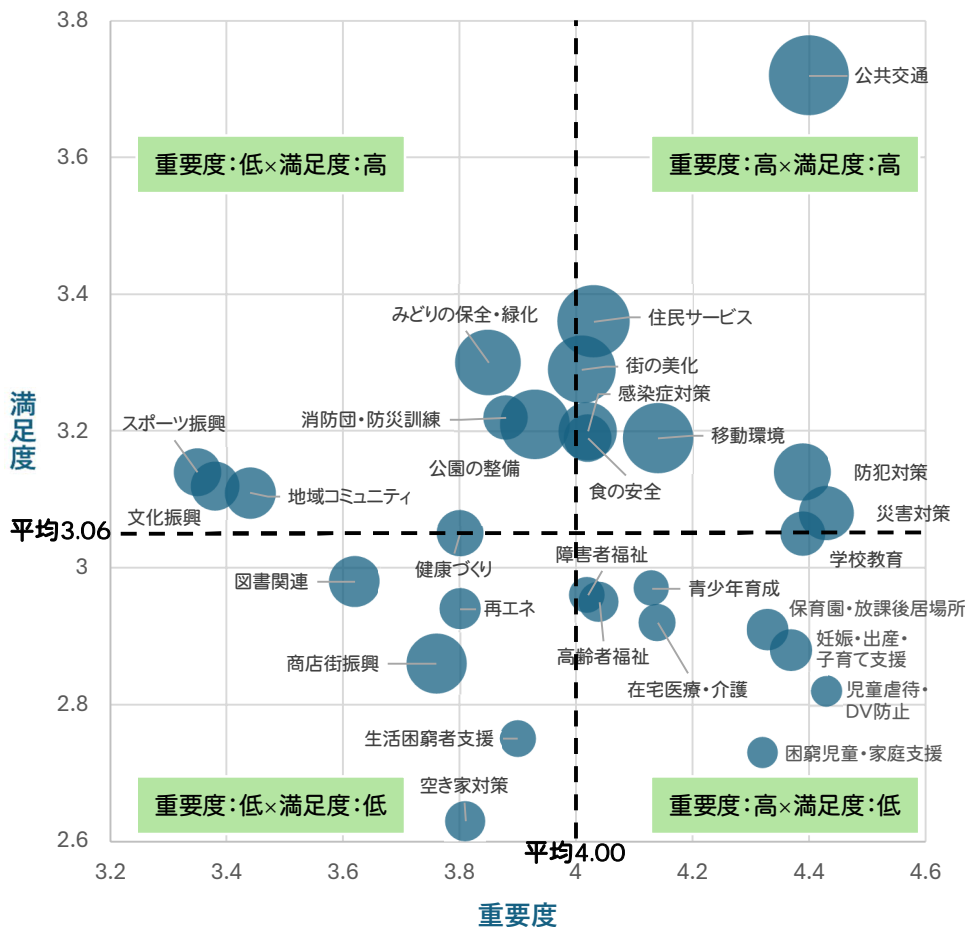
Check!

「特に理由はない」を選んだ割合が最も低かった30代では、全体の上位3項目に次いで、「小中学校期の子育て環境が整っていない」、「妊娠期・出産期の子育て環境が整っていない」、「未就学期の子育て環境が整っていない」といった子育て関連の項目が挙げられています。

3 行政施策に対する重要度と満足度(テーマ別)

公共交通や住民サービス、防犯対策などが、重要度と満足度のどちらも平均以上

問 28 以下の行政テーマについて、あなたの「満足度」と「重要度」をそれぞれお知らせください。(1~5点)



※横軸はテーマの重要度を、縦軸は満足度を表しています。
 ※点線は、平均点を表しています。(重要度:4.00点、満足度:3.06点)
 ※バブルの大きさは、満足度に対する回答率(「分からない・回答しない」や無回答を除いた割合、最小:32.6%~最大:86.2%)を表しており、円が大きいほど、多くの人に関係があるテーマであるといえます。

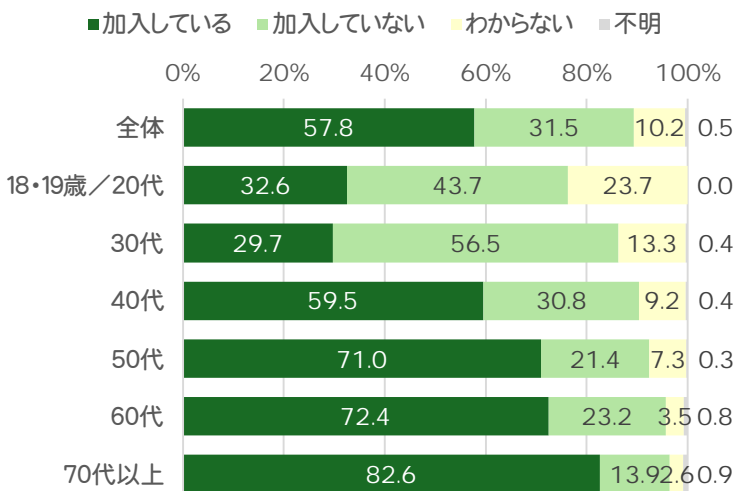
Check!

満足度が平均を上回るエリアには大きいバブル(=多くの人に関係があるテーマ)が多く位置する一方で、右下のエリア(重要度:高×満足度:低)には小さいバブル(=個別のニーズに関係があるテーマ)が多く位置しています。

4 自治会・町内会への加入状況

全体の加入率は57.8%で、年代が上がるにつれて加入率が高くなる

問 1 あなたは自治会・町内会に加入していますか。(1つまで)



39歳以下では加入率は3割前後で、単身や夫婦のみに限るとさらに低くなっています。

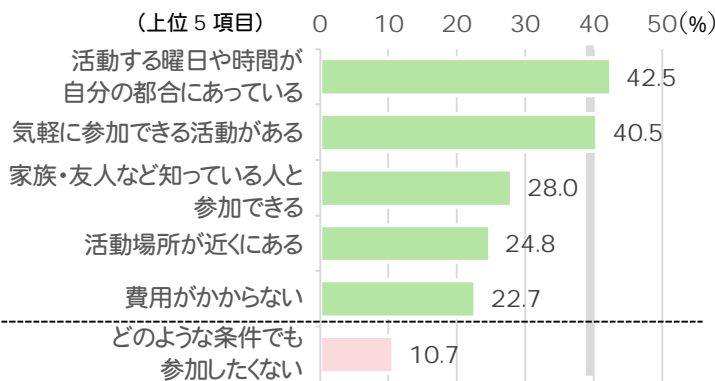
Check!

主な未加入理由としては、「きっかけがない」51.8%、「メリットを感じない」25.3%、「活動内容が分からない」20.9%などが挙げられています。

5 地域活動に参加しやすくなる条件

活動日時や気軽さに次いで、知っている人と参加できることがポイント

問 5 どのような条件であれば、地域活動に参加しやすくなると思いますか。(3 つまで)



「活動する曜日や時間が自分の都合にあっている」と「気軽に参加できる活動がある」がいずれも 40% を上回り、「知っている人と参加できる」「活動場所が近くにある」「費用がかからない」が続いています。

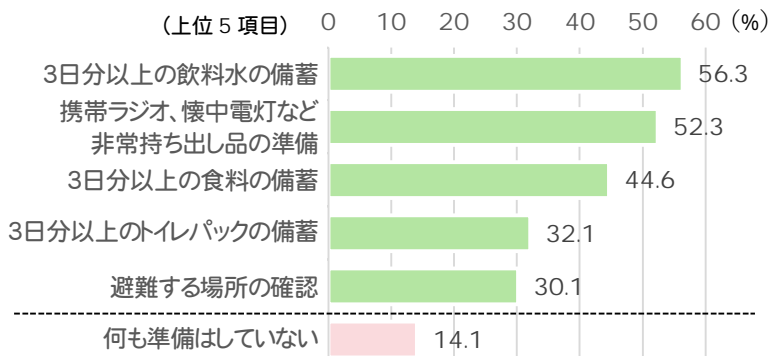
Check!

「どのような条件でも参加したくない」は全体で 10.7% である一方で、未就学～学齢期の子どもがいる世帯では 5.0% 前後となっています。

6 災害による被害を最小限に抑えるための取組

飲料水の備蓄、非常持ち出し品の準備、食料の備蓄がトップ3

問 18 災害による被害を最小限に抑えるために、あなたはどのようなことをしていますか。(いくつでも)



上位3項目以外では、「トイレパックの準備」が 32.1% と、令和2年の前回調査から9ポイント近くアップしました。

Check!

「何も準備はしていない」14.1% に注目すると年代別では若い世代が、各年代では単身世帯の割合がそれぞれ高くなる傾向がみられます。

7 望まれている子育て支援

遊び場、相談ができる場所、預かりがトップ3

問 20 あなたは子育て中の親子(未就学児や小学生)に対して、地域でどのような支援があると良いと思いますか。(いくつでも)



半数以上が「子どもを遊ばせる場所」と回答しており、「子育ての相談ができる場所」「ちょっとした子どもの預かり」が続いています。

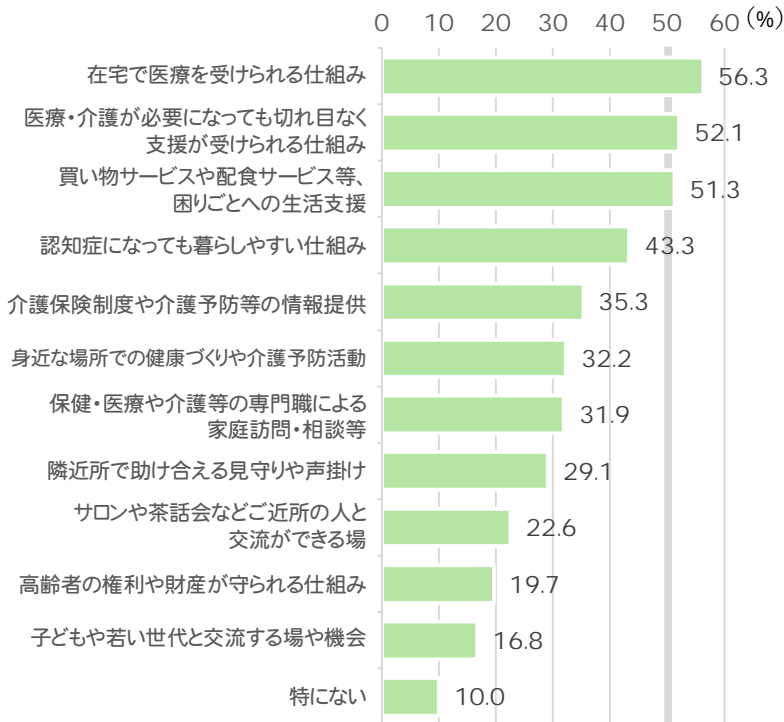
Check!

小学生以下の子どもがいる世帯と、39歳以下の夫婦のみ世帯を比べると、全体の傾向は似ていますが、「子どもを遊ばせる場所」(前者:80.5%、後者:65.0%)「親子が集える地域の身近な場」(前者:37.3%、後者:24.3%)などで差がみられます。

8 望まれている高齢者福祉

在宅医療、切れ目のない医療・介護、生活支援がトップ3

問 21 あなたは高齢者に対して、地域でどのような支援やサービスが必要だと思いますか。(いくつでも)



「在宅で医療を受けられる仕組み」56.3%、「医療・介護が必要になっても切れ目なく支援が受けられる仕組み」52.1%、「買い物サービスや配食サービス等、困りごとへの生活支援」51.3%が上位3項目となっており、いずれも50.0%を上回っています。

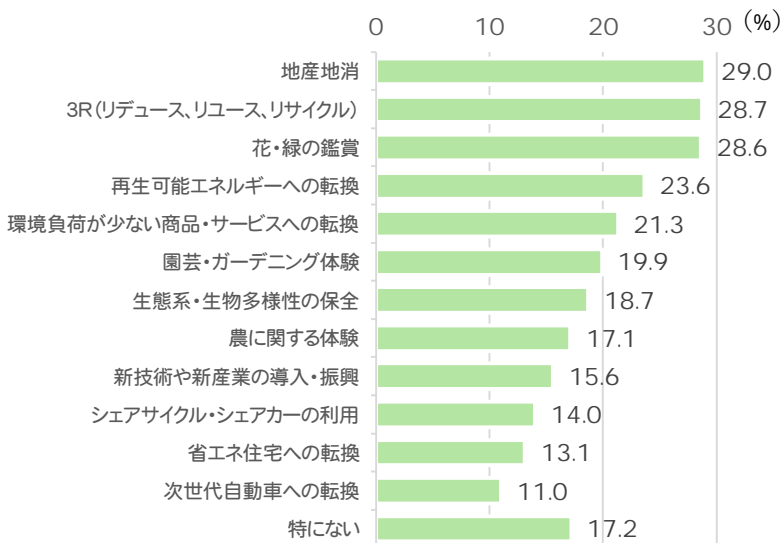
Check!

高齢者層(65歳～)では、「医療・介護が必要になっても切れ目なく支援が受けられる仕組み」66.6%、「在宅で医療を受けられる仕組み」64.0%とそれぞれ全体平均を大きく上回り、さらに「認知症になっても暮らしやすい仕組み」が52.1%で第3位に挙げられています。

9 実践している又は実践してみたい環境への取組

地産地消、3R、花・緑の鑑賞など、体験や身近な取組への関心が高い

問 25 あなたは、地球環境に優しい社会の実現に関するテーマのうちどのような取組について、関心があり、実践している又は実践してみたいと思いますか。(いくつでも)



「地産地消」29.0%、「3R」28.7%、「花・緑の鑑賞」28.6%が上位3項目となっています。

Check!

回答率が最も高い項目を年代別にみると、10・20代、30代、40代では「地産地消」、50代では「3R」、60代、70代以上では「花・緑の鑑賞」が第1位に挙げられています。

